

「Tomorrow is another day.」

去りゆく令和4年にあたり、一言「校長メッセージ」を寄せます。

つい先日まで、サッカーワールドカップが中東のカタールで開催されていました。時差の関係で、夜中から朝方にかけての放映でしたので寝不足の人もいたと思います。時事的な話題として日本チームの頑張りについては、すでに方々で語られていますので、ここでは割愛します。

さて、マーガレット・ミッチェル作「風と共に去りぬ」を皆さん知っていますか？全5巻にもなる超大作です。この大長編の最終行のセリフが「Tomorrow is another day.」です。一般的には、「明けない夜は決してない」とか「明日は明日の風が吹く」「明日に望みを託しましょう」との名訳が広く流布しています。図書館にある文庫本では、「だって、明日は別の日だから」と訳されていました。

この「風と共に去りぬ」やエミリー・ブロンテ作「嵐が丘」など、外国文学を多数翻訳されている、翻訳家・文芸評論家の「鴻巣友季子（こうのすゆきこ）」さんは「翻訳入門講演会」を全国で実施しているそうです。そこで出会った、熊本の高校生の翻訳は「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」です。

鴻巣さんが言うには、これはヒロイン、スカーレット・オハラのお嬢様の境遇から、戦争を経て、明日の糧も手に入らない貧困にたたき落とされました。

スカーレット・オハラは、何一つ不自由のないお嬢様の境遇から、戦争を経て、明日の糧も手に入らない貧困にたたき落とされました。

あらゆる災いが降りかかってくるたびに、おまじないのように唱えるのが「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」です。

とにかく心が壊れてしまわないよう、「なにもかも明日考えればいいのよ。」と自分に言い聞かせる。これは過酷な現実と向き合うためのスカーレット流「あともわし術」であり、現実逃避と言うより、「建設的な一時退避」と言えます。

苦しいとき、へこんだとき、このおまじない「Tomorrow is another day. 『とりあえず寝よう。』」を繰り返し唱えるのもいいかもしれません。

もしよろしければ、参考にしてください。

校長 山口大二